

県北地区 学術講演会

延岡市学術委員 甲斐 航太

日時：平成24年9月8日(土) 午後4時

場所：ホテルメリージュ延岡 研修室

講師：渡辺 孝夫 先生

神奈川歯科大学人体構造学講座客員教授

鶴見大学歯学部顎顔面外科学教室非常勤講師

日本大学歯学部口腔病理学教室非常勤講師

AO Active member

日本口腔インプラント学会専門医

演題：トラブルから学ぶ インプラント術



土曜日の午後、Dr、DH 合わせて 70 名近くの受講者を集めて開催されました。診療後でお疲れの所、各歯科医院の Dr、DH の皆さんの多数の出席に感謝いたします。また延岡市だけでなく今回は日向市からの出席も多数ありましたことを重ねてお礼申し上げます。会を始めるにあたり、延岡市歯科医師会の山本会長から御挨拶を頂き講演の開催となりました。

講義はまず、昨今のマスコミ上のいわゆる「インプラント バッシング」に始まりました。マスコミは、インプラントを否定する or 非難する傾向にあるので、「インプラントはトラブルが多い、高額」というイメージが醸成されてしまったのが問題。また、インプラントに関するアンケートの結果が、歯科医師と患者の間で認識のズレがあり、歯科医師はトラブルと思わない事象も患者は「インプラントトラブル」と捉えてしまう。諸外国では、可撤性義歯も自費である事が多く、そのためインプラントを選択する患者が多い。結果として日本はインプラント後進国である。

次に、インプラント治療での短期のトラブル(手術事故・紛争)については簡潔に述べられました。メンテナンス期間中の長期のトラブルについては、特に時間を割いて講義されました。インプラントトラブルの田島渡辺分類における I 型～V 型のそれぞれについて、その原因と対処方法を述べられました。それによると、

インプラントトラブルからみるメンテナンスの要点は、周囲炎と咬む力であり、

- ・ 限度以下の力でものを咬む
- ・ ポケット内の除菌

の二つがインプラントを長持ちさせるポイントである。

長寿社会における、インプラントの寿命とメンテナンスは、これからのトピックである。

講義の途中で、渡辺先生が次のように仰ったのが印象的でした。

「この街の規模は『インプラント特区』を構築するのに理想的」

「埋入オペ/麻酔をするエキスパートが、市内の他の Dr. のフォローをするシステム作りをしてはどうか？」

講義の後、市内中心部のお店に場所を移して懇親会となりました。ここでも渡辺先生から貴重なお話を伺いました。

「自分の父は、死ぬまでインプラントで食事が出来た。」

「施設に入って認知症等の症状が進行すると義歯を取り上げられて『胃ろう』にされてしまうケースが多いが、インプラントは取り上げられない！」

渡辺先生、大変意義のある講義をどうもありがとうございました。